第二節　地上警備

一　朝鮮に於ける警備思想の変遷

朝鮮に於ける警備は大別して対内警備と対外警備とに区分せらるるも内地と著しく趣を異にし対内警備に在りては日韓併合以来三十数年の統治に依り全く皇民化せられたりと雖も依然朝鮮民族としての対日思想は潜在しあると対外警備に在りては蘇聯、満洲國たる外國と接壤しある点に在り

(一)　対内警備の経緯は既述の如く其の主眼を治安維持に置き大正八年萬歳事件発生以来警察力を以て主体とし憲兵之に支援協力し軍隊は其の後據として存在し爾後特異なる事象を認めざりき

然るに大東亜戰爭の進展に伴ひ精鋭なる軍隊は逐次に出動し治安維持の後據たるべき軍の兵力は弱化し来れる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

と朝鮮に対する海外上りの策動顕著なるに及び軍の警備兵力を増強するの必要を生じ昭和十八年八月始めて特設警備部隊の創設を見るに至り爾後逐次本兵力を増強し要地並に重要施設の警備は突発事変に応じ軍自ら警備するの主義に転換せり

次で敵の大規模空襲を予想し且敵の本土上陸の機運濃厚となるや軍隊は対敵行動に専念するの止むを得ざる為茲に別箇の警備隊を必要とするに至り昭和二十年に入るや常設の警備隊を以て萬一の事態に備ふるに至れり蓋し國力を挙げての戦争遂行間朝鮮に於ける治安の良否は其の及ぼす所甚大なるものありたればなり

爾後更に対敵行動治安維持の完璧を期する為師管区司令部、地区司令部を組織せられ軍自ら警備に任じ得るの態勢を整へたり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

此の間非常法令たる戒厳令の適用に関しても数回に亘り研究する所ありしも発令するに至らざりしが事実上に於ては漸次戒厳施行の準備態勢に推進せられたると同様の状況に達せり

(二)

対外警備は國境警備より沿岸警備次で対敵警備の三段階に推移せり

朝鮮軍の鮮満國境に於ける警備は大東亜戦争勃発に伴ひ北方守備完整と防諜対謀略封鎖上の見地より再び警備を強化し「臨特演」以来特に其の守備を強化し混成聯隊を配置して陣地施設を強化し國境に重点を指向し沿岸警備に在りては要塞をして之に当らしめたり

然るに昭和十九年に入るや戦局の進展に伴ひ敵潜水艦漸次朝鮮近海に出没し一方蘇聯並に中國方面よりする謀略員、共産員の海上潜入の徴候顕著となるに及び茲に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

沿岸警備強化を必要とするに至りしを以て情報網を強化して此の種情報を偵知すると共に沿岸要衝に軍隊を派遣し総督府亦沿岸監視を強化すると共に「ジャンク」の取締を厳にし次で特設警備部隊の主力を挙げて沿岸警備に轉移せり

此の間謀略と推定せらるる火災事件諸所に発生せるを以て特に中國人に対する偵諜取締を強化せり

次で昭和十九年中期以降対米作戦の進展に伴ひ対敵警備を必要とするに至るや当初は敵の沿岸砲撃、奇襲上陸擾乱に対する顧慮に基き西方海岸線に対する防海監視網を構成し昭和二十年春季以降本土作戦準備を必要とするに至るや敵の主要上陸点に兵団の主力を配置し沿岸警備は轉じて作戦本位となれり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

而て之が陣地構築開始せらるゝや陣地施設兵力配置等の作戦防諜を強化し一方沿岸地帶を戦場地区、交戦地区に区分して住民の避難移駐を計画し國民義勇隊の結成に伴ひ作戦に即応する國民抗戦組織の発展を見るに至りて終戦となれり

二 警備担任組織

警備担任地区は三箇師団當時、三箇師団当時、師管区司令部創設以後の三段階を経過せり

大東亜戦争勃発当初は第十九、第三十、第二十二師団及び羅津、元山、釜山、麗水の四要塞にして要塞は各其の管区を警備地区とし第十九師団は咸鏡南北の二道其の他は第二十師団に属し両師団の担任地区に著しく懸隔ありたり

昭和十八年八月咸興に在りし歩兵第七十四聯隊補充隊、平

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

壌に在りし歩兵第七十七聯隊補充隊、南方より帰還転入せられたる歩兵第四十一聯隊及び其の他の特科部隊を以て新に第三十師団の編成完結するや平安南北道、黄海道及び咸鏡南道の四道は同師団の警備地区に轉入せり

次で昭和二十年二月軍の統帥組織を更改せられ方面軍並に軍管区部隊に区分し方面軍部隊は作戦に專念し軍管区部隊は主として國内防衛に任ずることとなり同年四月十日羅南、平壌、京城、大邱、光州の五師管区司令部並に各道毎に地区司令部を創設せられたり

依て各師管区の警備担任地区を附図第七の如く改めたり

然れども各要塞は従来防衛部隊として要塞の守備に任ずると共に廣範なる防衛任務に服しおりしも師管区部隊防衛を担任するに至りたるを以て爾後要塞管区を縮少せり

本土作戦準備進捗するに従ひ野戦師団は各師管内に駐

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

留するに至り師管区司令官と野戰師団長との間に防衛に関する責任の所在を明かならしむるの必要を生じたるを以て作戰地域内の防衛責任は野戰師団長之に任じ且作戰準備に関しては野戰師団長は師管区司令官（要塞司令官）を区処し得ることとせり

尚海軍とう防衛上の責任に関しては従来済州島及び鬱陵島は「陸海軍中央協定」に基き海軍の担任たりしも昭和二十年國土決戰に関する陸海軍中央協定に基き陸軍の担任となれり

三　軍隊を以てする警備

對内警備は警察及び憲兵を以て主体とし軍は其の後據たるの原則に基き各衛戍地に在りて專ら教育訓練に任じ状況に依り地方長官の要請に応じ出動するを本則とせり

然れども重要なる物件に対しては一部の兵力を派遣し警備す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

るを要し大東亞戰爭開始当初に於ては特に燃料確保の必要上元山朝鮮石油工場 同文坪石油「タンク」、釜山牧島石油「タンク」、麗水羅老島石油「タンク」には京城師団より一部の兵力を派遣し警備しありたり

然れども此等貯油量も漸次減少し警備の必要度減じたるを以て昭和十九年六月此等の警備を憲兵及び警察をして担任せしめ警備部隊は夫々原所属に復帰せしめたり

港湾警備に関しては従来要塞として専任の警備部隊を有せざりしを以て左の如く兵力を配属し要塞警備に任ぜしめありたり

釜山　京城師団より歩兵二中隊

羅津　羅南師団より歩兵二中隊

元山　平壌師団より歩兵約一小隊

然るに戰局の進展に伴ひ特に釜山に於ける軍隊の通過、軍需品総動員物資の滞貨は漸増し専任の警備隊を必要とするに至

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

り昭和十九年五月始めて第四十一警備隊を内地に於て編成軍の隷下に入らしめられたるを以て之を金山に配置せり

鉄道警備に関しては従来新義州鴨緑江鉄道橋に対し平壌師団より歩兵一中隊を派遣警備しありしも情勢の変化を顧慮し昭和十八年特設警備部隊の新設を見昭和十九年三月に至り更に同警備部隊を増強せられ鮮内鉄道の大部に亘り配備するに至れり

然れども特設警備部隊の要員は下士官以下在郷軍人にして而も屢次に亘る動員に依り要員減少し素質低下し斯る待命員を以て鉄道警備の万全を期すること能はず

茲に常設部隊の必要痛感せらるるに至り昭和二十年三月に至り内地にて編成せる警備大隊二十隊（人員約一万名）を輸入軍の隷下に入らしめられたり

対外警備中國境警備は当初「関東軍」との防衛に関する

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

協定」に基き満鮮國境の主要交通点は朝鮮軍の担任にして従来國境警備隊を全面的に配置しありしも漸次撤去し新義州、満浦鎮、上三峯の三箇所のみ残置せり

両軍の担任区分左の如し

朝鮮軍担任　新義州、満浦鎮、[illegible]、忠山鎮、上三峯、南陽

関東軍担任　訓戎、慶源、慶[illegible]、蘇満國境に在りては独立混成第百一聯隊を以て青鶴に位置せしめ豆満江対岸蘇領に対し[illegible]を領し主として向地視察に任ぜしめありたり

四　特設警備部隊、防衛隊を以てする警備

特設警備部隊及び防衛隊は在郷軍人を以て編成し且其の

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

主力は在鮮内地人に在るを以て先づ朝鮮に於ける在郷軍人の特質を述べんとす

(一) 在鮮内地出身在郷軍人は其の絶対数少く且偏在しあり即ち文化発達せる都会地、工業地帯、交通沿線に集中しありて山間離島等に僅少なるを以て部隊の編成に当り地域的に制限を受くるの不利ありたり

(二) 在郷軍人の異動頻繁にして転出入甚しく特に内地より新たに入鮮せるものに在りては兵事関係書類の到着遅延し要員に充用し得ざるもの相当数あるを常とせり

(三) 在郷軍人の大部は官庁、会社、工場の職員、鉄道、通信等交通関係の職員並に警察官にして且重要なる地位に就けるもの多く要員に充用し得ざるものあり又部隊幹部の人選、兵種の選定に制肘を受くるの不利ありたり

(四) 朝鮮出身在郷軍人に在りては其の素質、軍事能力十

29

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分ならず特に國語を理解し得るものは約六〇%に過ぎざる狀況に在りたり

特設警備部隊は昭和十八年八月始めて大隊四箇、中隊五箇を新設せられ主として北鮮地区及び南島地区に編成せられ專ら沿岸警備を主任務とせり

次で昭和十九年三月附表第五の如く增強せられ主力を以て鉄道警備を主任務とせり

同時此等の部隊統轄の爲咸興に第四十一警備司令部（司令官布施少將）大田に第四十二警備司令部（司令官稲川少將）を設置せられたり

両司令部は平壤及び京城師団長の隷下に在りて夫々一定の警備地域を担任せるも隷下部隊中常駐せるは常置員將校以下若干名にして実力を有せざる爲警備の責任は依然当該師団長に担任せしめたり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

次で昭和十九年十月新に附表第六の如く特設警備工兵隊を編成せられ主として飛行場、都市其の他の復旧を主任務とし昭和二十年三月一部の改編を実施し更に師管区の設置に伴ひ両警備司令部は閉鎖せられたり

此の間鉄道警備の常設部隊を配置せらるるに至りたるを以て従来の特設警備部隊を挙げて沿岸警備に変更し一部は野戦師団長の指揮に属し作戦任務を担任せしむることとせり

此等特設警備部隊の訓練は一年間を通じ既教育者四十日間、未教育者六十日間を基準とし数回に区分し実施し終戦時に於ては相当の能力に達せり然れども屢次の動員に依り逐次優秀なる要員は抽出せられ半島出身在郷軍人之に代り特に特設警備工兵隊の如きは三分の二以上半島出身兵を以て充つるの状況となれり

在郷軍人防衛隊は特設警備部隊の補助的部隊として昭和

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十九年三月之を編成し之が教育訓練は主として兵事部長在郷軍人会の教育に併行して実施し軍は一年間を通じ五日間以内に限り自ら訓練を実施しありしが同年十月在郷軍人会は総て防衛隊に組織せられしを以て従来の防衛隊を甲防衛隊、新に組織せるものを乙防衛隊と呼稱し全鮮に亘り結成せり

本防衛隊の編成に方り朝鮮として特異なる事項は各分会共半島出身在郷軍人を多数包含し特に昭和十九年及び昭和二十年の徴兵検査に依り其の要員は著しき数に上りたることにして就中半島出身兵のみの分会を如何にすべきやの問題ありしも一応各分会共防衛隊として組織せり

防衛隊も編成完結し訓練其の緒に就かんとせしが國民抗戰組織の編成せらるるに及び解隊するに至れり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	2 1
分割撮影した理由	A３版以上のため
文書等名	特設警備部隊一覧表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附表第五

特設警備部隊一覽表

（昭三、八、一五調）

隷屬指揮	部隊	所在地	任務基準
羅南師管區	特警四五一大（甲）	清津	要地及び沿岸警備
〃	〃 四五二大（甲）	〃	沿岸警備
〃	〃 四六一大（甲）	城津	要地及び沿岸警備
〃	〃 四〇二大（乙）	咸興	〃
〃	〃 四〇三大（乙）	興南	〃
〃	〃 四〇五大（乙）	新北青	沿岸警備
〃	〃 四〇八中	阿吾地	要地警備
〃	特警工 四〇一	咸興	飛行場復旧
〃	〃 四〇九	会寧	〃
〃	〃 四一〇	清津市	都市復旧
平壤師管區	特警四〇七大（乙）	新義州	要地警備
〃	〃 四五三大（甲）	平壤	〃
〃	〃 四五四大（甲）	沙里院	沿岸警備
〃	〃 四〇九中	蕭三浦	要地警備
〃	〃 四一〇中	海州	沿岸警備
〃	特警工 四〇二	平壤	飛行場及び都市復旧
〃	〃 四一二	新義州	飛行場復旧
〃	〃 四一三	海州	〃
京城師管區	特警四五五大（甲）	京城	要地警備
〃	〃 四五六大（甲）	〃	〃
〃	〃 四五七大（甲）	〃	〃
〃	〃 四五八大（甲）	仁川	沿岸警備
〃	〃 四一〇大（乙）	大田	要地警備
〃	〃 四一三大（乙）	襄陽	沿岸警備
〃	特警工 四〇三	京城	飛行場及び都市復旧
〃	〃 四一一	〃	〃
大邱師管區	特警四〇九大（乙）	大邱	要地警備
〃	〃 四六三大（甲）	浦項	沿岸警備
〃	〃 四〇二中	鬱陵島	島嶼警備
〃	特警工 四〇四	大邱	飛行場及び都市復旧
光州師管區	〃 四〇五	群山	飛行場復旧
第五八軍	特警四〇五中	済州	島嶼警備
〃	特警工 四〇八	〃	飛行場復旧
羅津要塞	特警四六〇大（甲）	羅津	港湾警備
永興湾要塞	〃 四六二大（甲）	元山	〃
釜山	〃 四一五大（乙）	釜山	沿岸警備
〃	〃 四五九大（甲）	〃	港湾警備
海雲台	特警工 四〇六	海雲台	飛行場復旧

0065
0066

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師管區	〃	四〇三大（乙）	興南	〃
	〃	四〇五大（乙）	新北青	沿岸警備
	〃	四〇八中	阿吾地	要地警備
	特警工	四〇一	咸興	飛行場復旧
	〃	四〇九	会寧	〃
	〃	四一〇	清津	清津市復旧
平壤師管區	特警工	四〇七大（乙）	新義州	要地警備
	〃	四五三大（甲）	平壤	〃
	〃	四五四大（甲）	沙里院	沿岸警備
	〃	四〇九中	兼二浦	要地警備
	〃	四一〇中	海州	沿岸警備
	特警工	四〇二	平壤	飛行場及び都市復旧
	〃	四一二	新義州	飛行場復旧
	〃	四一三	海州	〃
京城師管區	特警	四五五大（甲）	京城	要地警備
	〃	四五六大（甲）	〃	〃
	〃	四五七大（甲）	〃	〃
	〃	四五八大（甲）	仁川	沿岸警備
	〃	四一〇大（乙）	大田	要地警備
	〃	四一三大（乙）	襄陽	沿岸警備
	特警工	四〇三	京城	飛行場及び都市復旧
	〃	四一一	〃	〃
大邱師管區	特警	四〇九大（乙）	大邱	要地警備
	〃	四六三大（甲）	浦項	沿岸警備
	特警工	四〇四	鬱陵島	島嶼警備
	〃	四〇二中	大邱	飛行場及び都市復旧
	〃	四〇五	群山	飛行場復旧
光州師管區	特警	四〇五中	済州	島嶼警備
第五八軍	特警工	四〇八	〃	飛行場復旧
羅津要塞	特警	四六〇大（甲）	羅津	港湾警備
元山要塞	〃	四六二大（甲）	元山	〃
釜山要塞	〃	四一五大（乙）	釜山	沿岸警備
	〃	四五九大（甲）	〃	港湾警備
	特警工	四〇六	海雲台	飛行場復旧
	〃	四〇七	泗川	〃
麗水要塞	特警	四一六大（乙）	宝城	港湾及び沿岸警備
第十六師團	〃	四〇八大（乙）	群山	沿岸警備
第十七師管區	〃	四一四大（乙）	洪城	〃
第五〇師團	〃	四六四大（甲）	木浦	〃
方面軍	〃	四一一中	珍島	島嶼警備

摘要

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五　國民抗戰組織

國土決戰に備へ國民總武裝の機運抬頭するや昭和二十年四月國民義勇隊、國民戰斗義勇隊を編成するに至り軍は總督府と屢々会同研究を行ひ國民義勇隊は内地に遅れたるも六月八日全鮮に亘り結成せられたり

朝鮮に於ける國民抗戰組織附表第六の如し

先づ國民義勇隊に就て見るに其の構成は概ね内地の組織に準じたるも特異とする所左の如し

隊長の人選に方りては眞に統率力ある地方有力者を充つるを有利とせるも朝鮮に在りては人選上難点あり且從來の經驗に鑑み行政系統を以てせざれば部隊として統制ある行動を採り得ざるを以て府邑面長、職域の長を隊長とせり

警防団の解消は内地に於ては実施しなりしも朝鮮に於ける警

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

防団は警察の補助団体にして依然存置するを有利と認め解消せざることとせり

運輸通信、救癈機関等特技を有するものは特技隊として組織せり

内地翼賛会に相当すべき國民総力朝鮮聯盟は問題ありしも解体し夫々義勇隊内に包含せしめられたり

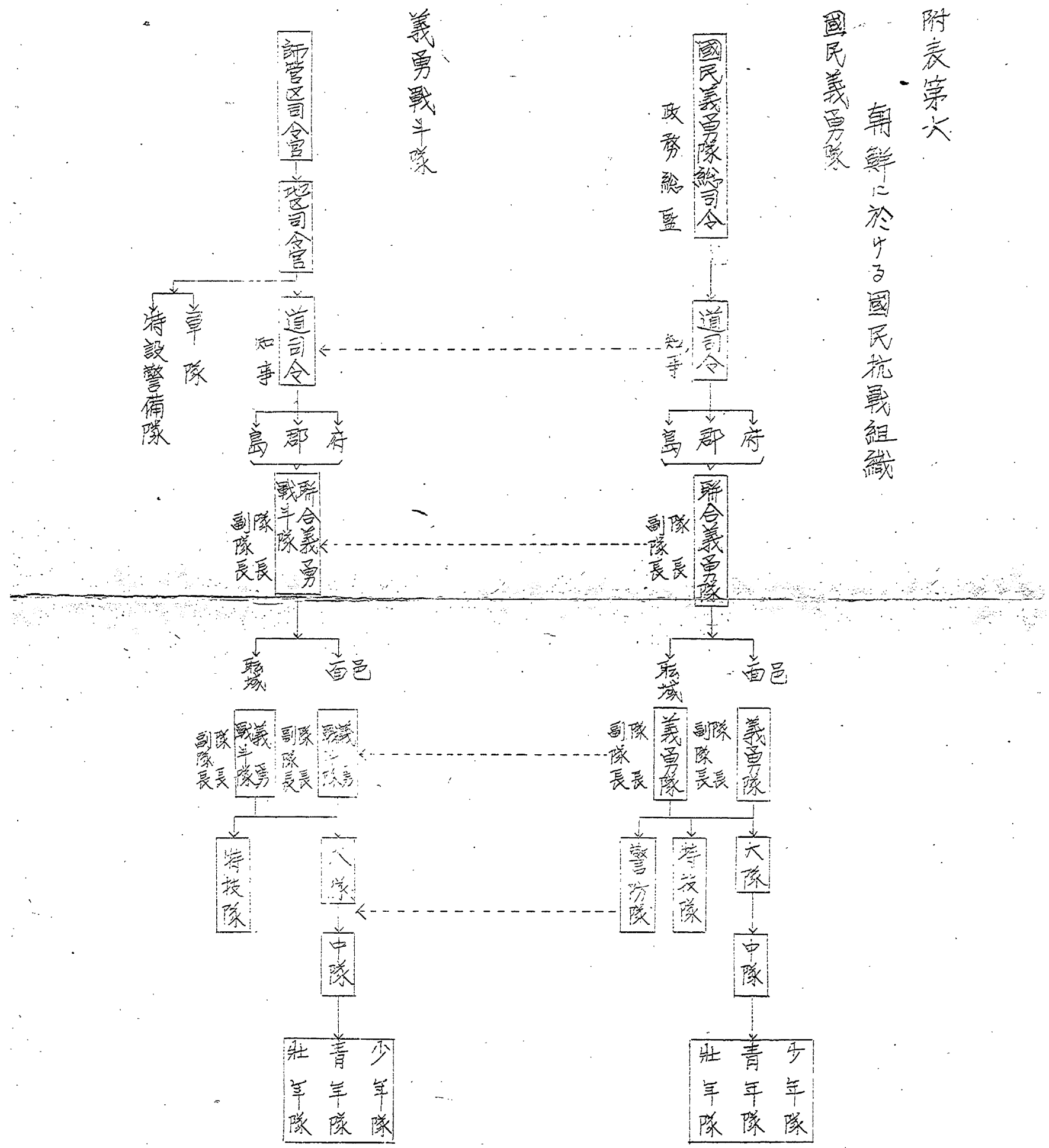
義勇戰斗隊に在りては遂に其の編成を見ざりしも在郷軍人防衛隊及び警防隊を解消し一元的に運用すべく立案しありたり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附表第六

朝鮮に於ける國民抗戰組織

國民義勇隊



義勇戰斗隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六　憲兵を以てする治安警備

朝鮮に於ける憲兵隊は憲兵隊司令部を京城に、憲兵隊本部を羅南、咸興、平壌、京城、大邱に置き行政警察に関しては朝鮮総督の、軍事警察に関しては朝鮮軍司令官の指揮を承けありて其の配置の重点は國境並に軍隊の所在地に置き警察機関と密に提携し治安警備に任じありたり　特に対蘇防諜に重点を置き國境を封鎖して共産系の策動を防止すると共に京城蘇聯領事館の監視を厳にせり戰局の進展に伴ひ在満在鮮部隊の南方派遣に方りては輸送防諜を強化し昭和十九年三月以降大邱憲兵隊本部を釜山に推進し補助憲兵を五十名増加配屬して港湾地区に於ける防諜を強化せり

次で昭和十九年春季以降沿岸警備を強化するに至るや憲兵も之に伴ひ一部を沿岸地区に推進し昭和十九年八月新に光州に憲兵隊本部を増設せり

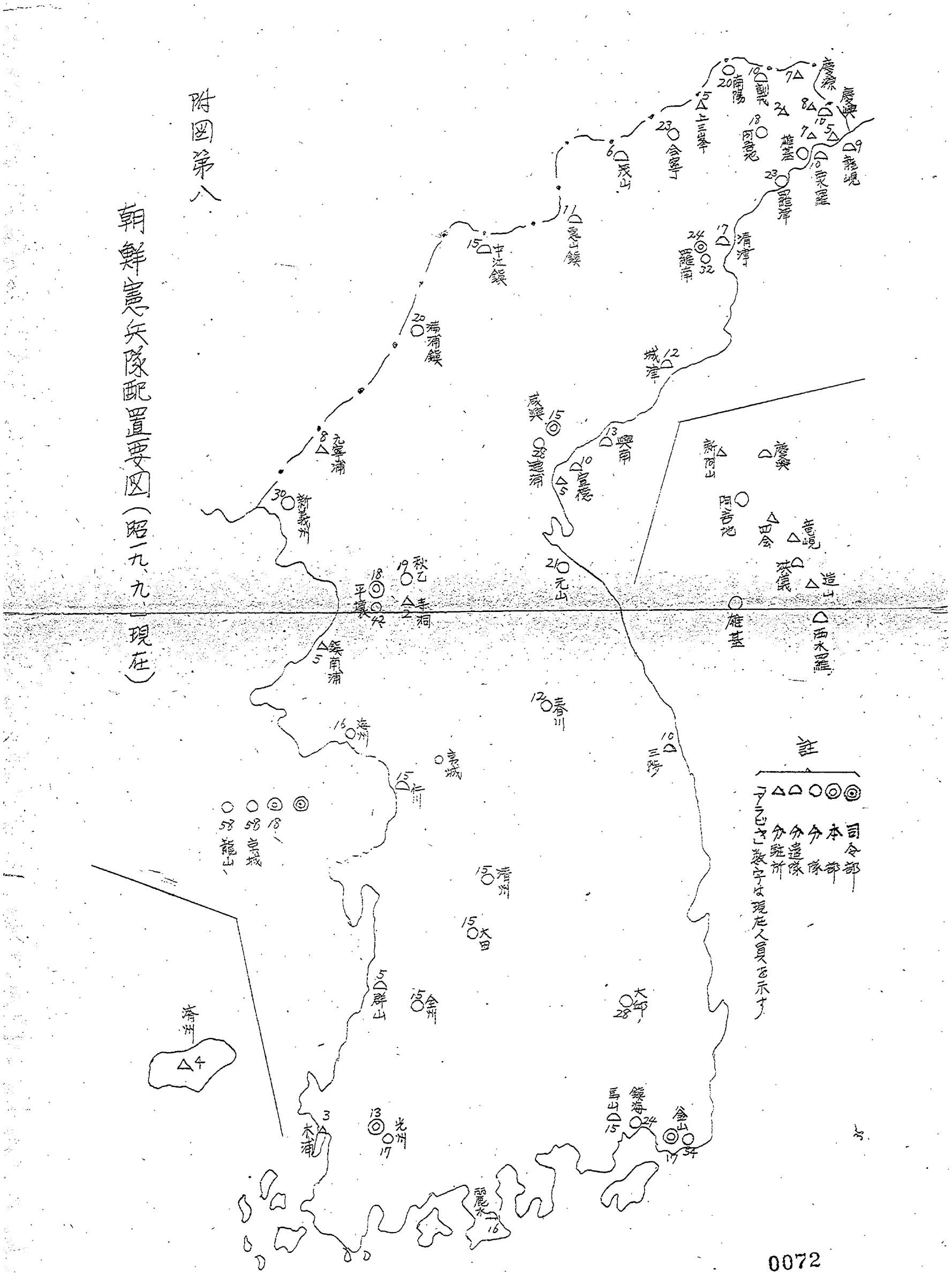
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和十九年九月頃に於ける憲兵隊の配置附図第八の如し
國土決戰準備に依り作戰部隊增強せらるるや憲兵も之
に伴ひ增強せらるることとなり昭和二十年四月新に新義州、
春川、大田、大邱に憲兵隊本部增設せられ此等は從來のも
のと合し地区憲兵隊と呼稱するに至り京城地区に限り憲兵
隊司令官の直轄地区とせられたり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附図第八

朝鮮憲兵隊配置要図（昭一九、九、一現在）



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

36

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七　警察を以てする治安警備

朝鮮に於ける警察機構は総督の下に警務局長ありて之を統轄する外道以下の組織は内地に準じあり

朝鮮に於ける警察の特質とする所左の如し

一、重軽機関銃、小銃、拳銃等の武器を相当数装備しありて武装せること

二、警務局及平安北道に飛行機を有し警備連絡用に使用しあること

三、朝鮮出身警察官を包含し其の数定員の概ね三分一を限度としあること

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

4、警察官総数約一万五千名にして武装しある点、微弱一箇師団に相当する警備兵力を有すること

5、補助団体として警防団、警備予備員、学校総力隊等を利用しあること

6、警察用通信網比格的整備しありて警備情報迅速なること

警察の配置は従来より満蘇國境を重視しありて國境警察隊の思想未だ残存しありて兵器の保有数に於ては平安北道咸興北道を以て第一とせり 昭和十九年春季以降南鮮沿岸地区に於ける沿岸警備の増強を要するに至るや軍は愛と総督府に要望し北鮮地区の重点配置を南鮮地区に転移せしめ済州島を始め南鮮離島地区に警察官及び兵器を増強せり

特に済州島は従来島司警察署長を兼務しありしも之を分離せしめ後第五十八軍団島に進駐するに至り島司に代ふるに勅

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

任級の駐在事務官を置き独立權限を附与することとなれり

第八節　警備情報

朝鮮の特異性に鑑み治安情報の蒐集には最も重点を置き軍憲兵、警務局密に連繋し夫々の立場に於て治安情報を蒐集し治安の遺憾なきを期せり

朝鮮の治安上最も考慮したるは独立運動にして大正八年萬歳事件発生後特記すべき事態の発生を見ざりしも本運動は漸次地下に潜行し蘇聯に本部を置ける共産系、米國に本部を置ける独立運動の三者ありて常に外部より策動しありき　特に大東亜戰爭開始後に於ては米國側よりする宣傳策動顕著となれり　朝鮮に於ける民心の動向は常に戰局の推移と関聯し滿洲事変続いて支那事変の発生に依り皇軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の威武中外に顯彰せらるるや朝鮮の皇國に對する信頼は最高潮となり治安亦憂ふべきものを見ざりしも大東亜戰爭後半期に於て戰局の前途多難の徴候現はるるや民心極度に不安狀態となり治安上衆觀を許さざるに至れり 之を地域的に見るも朝鮮治安歴史の変遷に基き咸興南道、平安北道、黄海道、江原道、全羅南道は特に警戒を要する地域たりき

軍は各師団、要塞、兵事部等を以て管内の情報を蒐集し別に軍司令部内に情報蒐集の直轄機関を置き此の任に当らしめ對蘇情報に関しては別に羅津に特務機関を置き密に関東軍と連繋し情報を蒐集せり

憲兵は其の本来の任務に鑑み特に治安情報を重視し全鮮に亘り情報の入手に努力すると共に別に一部の無線監視を実施せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

情報関係機関の連絡に関しては軍、憲兵、総督府三者間に情報連絡委員会を組織し毎月恒例的に或は臨機会同を実施し情報の交換を実施せり

八 終戦時の警備

朝鮮総督(阿部信行)は米軍来攻して朝鮮が戦場となり第十七方面軍が全力を以て之に当るに際し一般人民を保護収容避難救護を完うし治安を確保すべく腐心し先づ離島就中済州島(住)民を朝鮮本土に収容すると共に各都市町村の自警組織を強化せり蓋し警察官は総計一万八千名にして警察官一人当人口は一千五百名に上り警察官不足するのみならず其の中枢たるべき日本人警察官は逐次軍隊に召集せられ僅々四千名に過ぎず仍て之を民団自警に依りて補足せんとす

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

之が爲昭和二十年春以來政務總監遠藤柳作、警務局長西廣忠雄は總督の命を承けて大義黨（朴春琴）其の他十團体を指定して培養に努め愛國運動を全鮮に展開して効果遂次見るべきものありたるが終戰と共に親日派の没落に直面し無爲に終れり

之より先總督は尤翼の巨頭呂運亨を野に起用し警備に協力せしむることとし治安維持協力會を組織したるが安在鴻其の他尤派の面々糾合し準備を進めつゝありしが昭和二十年八月十五日終戰と共に俄に看板を塗替へ朝鮮建國準備委員會と改稱し八月十六日以降木鐸を會員（學生）に持行せしめ市中主頭街頭交通整理に当らしめ其一部は放送局、新聞社を占據せり次で十六日正午以後は各警察の日本人警察官長は朝鮮人に交代を強要せられ巡査亦朝鮮人學生と交代せしめられ總督府各局、檢事局、刑務所は事務を朝

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

鮮人官吏に引継ぎて拱手為す無し又刑務所は朝鮮思想犯及び政治犯囚人を悉く釈放し其の自由の行動に委せり之が為京城市中には萬歳を叫び群集の市中行進行はれたり

此に於て軍参謀長は総督府首脳者と軍司令部に於て会同し善処措置を行ふと共に軍は民衆の軽挙盲動を断乎取締るべき旨をラヂオ放送し且特殊を以て周知せしめ且放送局、銀行、新聞社等に派兵し且市街要所を兵力を以て警備せり

之が為萬歳騒ぎは翌十七日正午終熄せりしが此の波紋は全鮮に波及せり但し平壌に於ては約三百名の学生集団したるが曹晩植(民族主義の巨頭)に慰撫せられて行進するに至らずして解散せり

此の萬歳騒動は全鮮警察官署を襲撃し朝鮮人官吏の勤務する郡面の事務所を襲撃せるが日本人官吏には一指もふれず被害者は悉く朝鮮人警察官又は官吏なりしは一奇と謂うべし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

此で警察は全く無能力化したれば軍は将校以下一萬名を以て特別警察隊を編成し短期教育の後之を各道に分属して警察力を保持せり　此の部隊は米軍進駐に伴ひ警備を移譲して解散せり

軍司令部は九月十六日米軍との間に休戦書類の調印をアして大田に移り滞在すること二ヶ月　南鮮十二萬の日本軍と日本人の引揚を担当せり

其の間日本人に対する朝鮮人の暴行掠奪事件各所に発生せしが兵力を以てする警戒と救出輸送自動車の活用により被害を最小限度に止め得たり

但し三十八度線以北に於ては蘇軍の暴虐甚しく朝鮮暴民之に和して日本人を困窮に陥らしめ被害目を掩うものあり　人道上許し難き事件随所に発生し阿鼻叫喚の状を久しきに亘り露呈せるは遺憾に堪へざるところなり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp